

政務活動費・報酬・定数を考える現場のヒント

政務活動費

政務活動費の使途は、調査研究、研修、広報、陳情活動など幅広い。

充当が不適當な経費と判断されるものには、政党活動、選挙活動、後援会活動、などがある。政務活動費の根拠法ではその議会における会派、または議員に対し、交付することができる。議長はその使途の透明性の確保に努めるものとする。

議員報酬

現在「懲罰」的に報酬・定数の削減が叫ばれる流れである

- ・議員の仕事が明確ではなく、報酬根拠も薄く批判にさらされる。
- ・一部首長によるポピュリズム的なキャンペーン
- ・マスコミの取り上げ方にも問題、本質よりも上げ足取りに周知
- ・選挙公約に定数・報酬減を叫び当選する議員もいる。

議員定数

- ・目先の改革⇒効果・検証を高めることより、まず「費用」削減
- ・議員減少の中、常任委員会の議員数の見直し、作業数の大小で委員数を決める、常任委員会の整理統合で対応する。

2024 年 1 月 12 日

質問力をアップする現場のヒント

地方議会の本質、100 の議会があれば 100 通りの議会運営があり 100 人の議員がいれば 100 の正義がある。議会は議員により合議し議決する機関であると同時に理事者席に座っている 25 年以上のベテランが相手、そのためには、議会の中で共感を得るための努力が必要、それは日々の勉強と対話と説得である。

質問スタイル

- ・地元・住民要望型 選挙対策としても依然として最大有効
- ・財政・市政に関するチェック型 「決算カード」を読み切る必要あり。行政が枕詞にする「黒字を達成」「健全化判断比率」は良くて当り前、誤魔化されない様注意が必要。

執行部から見た議会質問

- 市長の見方と似ているが議員の仕事力についてはよりシビアに見ている
- ・勉強不足なのに上から目線（素直になるべき）
 - ・選挙前だけは以上に頑張る（常に頑張るべきである）
 - ・日頃何をしているのかわからない（見えない？）

長嶺 敏昭 細田 憲司 福田 文治